

【目次】

- ・新支部長挨拶（伊藤真理） p.1
- ・2020年支部総会報告 p.3
- ・IAML ONLINE 2020 参加記 p.7
（工藤哲朗/荒川恒子/伊藤真理）
- ・事務局だより p.11

新支部長挨拶

伊藤真理（愛知淑徳大学）

2020年は世界中のだれもが予測不可能な状況となりました。そして1年が終わろうとするこの時期（原稿執筆時点）においても、みなそれぞれに可能な限りの正確な情報を得ることを心がけ、このコロナ禍を乗り切ろうと努力されております。新規役員会はそのような中で、みなさまからのご信任をいただき発足いたしました。新規役員メンバーは、世代も幅広く、公立や私立機関に属する研究者、図書館員、民間企業で活躍されている会員という大変理想的な構成です。私は支部長という重責を務めることとなりましたが、今期の仲間を支えていただきながら精一杯務めて参ります。諸事への対応がままならない状況は変わりませんが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、みなさまには既にメーリングリスト等でお知らせいたしました。当支部創設に関わり、長らく音楽図書館全般にわたりご貢献くださいました岸本宏子先生が、10月9日にご逝去なさいました。先生は最後まで惜しみなくIAMLへ協力くださり、有益なご助言をくださいました。心より哀悼の意を表します。

また、当支部の活動における様々な課題については、昨年のシンポジウム等でも再確認したところです。昨年度は定年退職を迎えるなどの事情により退会者が

多くあり、世代交代を痛感させられることの一つでもありました。団体会員の退会もみられることは、支部の経済的な基盤にも大きく影響することでもあります。近年、本部においても関連他団体においても、アドボカシーへの意識がとても高いと思われま。私自身、当活動を正確に理解できているわけではありませんが、音楽図書館や専門職の重要性についての広報、関係者への啓蒙活動について、当支部では何ができるのかをさらに優先的に取り組む必要があると考えております。

例えば、Rプロジェクトは、研究者や学習者など音楽コミュニティを支える重要な役割を担っています。このRプロジェクトを担うのは、研究者と図書館員です。したがって、Rプロジェクトは、音楽図書館員が自らのアイデンティティを意識できることの一つであり、音楽図書館自体がIAMLへの協力・理解ができなくなってしまうと、自らの情報サービスの活動が低下することを意味します。このような負の連鎖を断ち切り、外部への見える化を図っていきたいと考えております。そのためにも会員のみなさまのお知恵を拝借したく、若い世代の会員とともに少しでも前進できればと期待している次第です。これまでのご支援に深く感謝いたしますとともに、今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

【IAML 日本支部の体制】

これまで役員会での役割分担について、役員会議事録以外ではあまり公表される機会がありませんでした。しかし、上述の通り次の世代の方々に組織についてもっと知っていただくために、毎期の役員会でどのような活動をして日本支部を支えているのかについてご説明することは大事なことと思われま。今期2020～2022年については、選出された支部長、副支

部長、事務局長をのぞき、下記の通りの担当となりました（敬称略）。役員以外の会員のみなさまにもご協力を賜っております。この場を借りてお礼申し上げます。

今期役員等担当一覧

会計	野川夢美
会計監査	平岩寧
例会企画	加藤信哉・田島克実・野川夢美
ニューズレター	工藤哲朗
支部ウェブサイト	柳澤健太郎
メーリングリスト	柳澤健太郎
若手の会	工藤哲朗・山本宗由
SNS	山本宗由
リエゾン	RILM：伊東辰彦 RIPM：工藤哲朗 RIIdIM：[調整中] RISM：[調整中] 音楽図書館協議会：加藤信哉 日本音楽学会：宮崎晴代

関連団体とのリエゾンについては、前支部長のご提案により昨期から検討して参りました。リエゾンには、リエゾン先団体の窓口となることによって、当該団体と当支部との円滑な情報共有が行われることを目指す橋渡しの役割が期待されます。具体的には、担当となっている当該団体について、および当該団体からの情報について、支部役員会や支部会員への連絡・案内を行い、当該団体からの依頼がある場合には、速やかに支部役員会に取り次ぎ、適切な対応を検討できるようにします。加えて、当支部会員、国内関係者からの連絡や依頼等についても同様に対応することとします。そのため、例えば RIPM 本部等からの問い合わせについては、内容に該当すると思われる音楽図書館にご連絡いただくこととなります。とはいえ、昨期から今期前半では、まだ事例といえるものは本格的には生じておりません。

また、本部 Advocacy 委員会には伊藤が委員として

参加し、本部 Cataloguing and Metadata 委員会には鳥海恵司氏と伊藤が情報提供などで活動に参加しております。会員の方々のなかで、各種委員会等で活動されていらっしゃる場合にはぜひ情報をお寄せください。

【役員会活動方針】

2020 年度の活動計画についてはウェブで実施された総会にてご審議・ご承認をいただいたところですが、2022 年度までの今期では、上述の通りアドボカシーの重点化を進めていく所存です。その第一歩が役員会活動、支部活動のさらなる見える化です。既に若手の会のご提案により SNS の利用が開始していますが、有用で興味深い情報の継続的な発信により、活動をさらに発展させることが期待されます。加えて、支部刊行物について各種書誌データベースの登録の可能性を探ることで情報の発見可能性を高めること、40 周年記念事業の一環としての記念誌発行の準備を進めることなどをあげることができます。

さらにリエゾンの機能を活かし、関連外部団体との連携強化の可能性も探っていきたいと思えます。特に音楽図書館協議会とは、2000 年代に合同例会を開催していた経緯もあります。ここ数年は、音楽情報の組織化について大きな変化があった時期でもありますので、国際的な動向についての情報共有や音楽情報組織化分野で貢献している当支部会員のご協力を得ながら、有益な企画等の検討をしていきたいと思えます。日本音楽学会とは以前からウェブサイトを活用した情報共有について確認しておりましたが、行動に移されておりませんでした。開始さえすればあとはルーティンに乗せるだけです。是非とも実現していきたいと存じます。上記のいくつかの事項については、改めてみなさまに事業計画としてご承認をいただく予定ですが、これらの活動によって音楽図書館のステークホルダーの意識を向上させることが肝要と考えております。会員のみなさま方のご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

2020 年支部総会報告

日時：2020 年 7 月 12～17 日

会場：書面にて開催（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策により対面開催中止）

会員総数：65（個人会員 46、団体会員 19）

書面による回答者：荒川恒子、飯山かおり、石田康博、伊東辰彦、伊藤真理、植田栄子、加藤信哉、金井喜一郎、金澤正剛、加納マリ、工藤哲朗、栗林あかね、佐々木勉、澤田宏美、関根敏子、田島克実、友利修、鳥海恵司、野川夢美、樋口隆一、平岩寧、宮崎晴代、美山良夫、柳澤健太郎、大和紘子、山本宗由、アカデミア・ミュージック、上野学園図書館、エリザベト音楽大学、大阪芸術大学、昭和音楽大学、東京音楽大学、桐朋学園大学音楽学部、同朋大学・名古屋音楽大学、株式会社トッカータ、民音音楽博物館音楽ライブラリー、武蔵野音楽大学図書館（37 名）

I 報告事項

1. 2019 年活動報告（資料①）

通常総会（2019 年 6 月 15 日（土）愛知淑徳大学星が丘キャンパス 1 号館 13A 教室）にて、会員より事務局長活動停止に関しての会員への報告が必要との発議があり、下記の通りに臨時総会を開催した。

臨時総会 2019 年 11 月 2 日（土）

順天堂大学国際教養学部第 2 教育棟 302 号教室

2. 2019 年会計決算報告並びに会計監査報告（資料②）

ニューズレターを電子化し、個人会員の皆様には、メールでリンクを配信しオンライン上でお読みいただくことにしたため、こちらの印刷費と郵送費（通信費としての計上）の大幅な削減につながった。その一方で、臨時総会を開催したことにより、臨時の郵送費がかかったため、トータルとしてはほぼ予算内に収まったといえる。

3. 会員の異動（2020.6.6 現在）

退会：稲葉良太、小倉洋子、久保絵里麻、久保田慶一、佐藤みどり、嶋田弘美、土田英三郎、戸倉信昭、林淑姫、名古屋芸術大学図書館

4. 役員選挙 2020 報告・発表（会員メーリングリストにて既報 6/6 付）

2020 年役員選挙は 3 月 27 日公示、候補者の推薦受付を経て、4 月 24 日より本選挙（郵便）、5 月 12 日投票が締切られた。5 月 15 日に行なわれた開票の結果は次の通りである（数字は得票数）。投票総数 29（無効投票 0）、投票率 46.8%。

○支部長	伊藤真理	28
○副支部長	加藤信哉	24
○事務局長	宮崎晴代	20
○役員	田島克実	22
	野川夢美	22
	工藤哲朗	20
	柳澤健太郎	19

なお、今回の選挙委員会は、加納マリ委員長、桐朋学園大学附属図書館（坂巻彩華）委員、株式会社トッカータ（高柳紅仁子）委員の 3 名によって運営された。

II 審議事項

1. 2020 年活動計画（資料①）

プラハ国際大会は中止。2020 年 7 月 20～24 日に IAML ONLINE 2020: Virtual Meetings and Discussions 開催予定。【承認】

2. 2020 年予算案（資料③）

今年度は選挙年度にあたるため、選挙費用として通信費、交通費、雑費を計上した。現在、すでに選挙費用は清算済みで、予算内に収まっている。【承認】

3. 新役員人事

伊藤真理新支部長より、会計担当・野川夢美氏、会計監査・平岩寧氏が選出された。【承認】

以上

資料①

2019 年活動報告および 2020 年活動計画

	2019 年活動報告	2020 年活動計画(中間報告及び予定)
国際大会	クラクフ国際大会 2019 年 7 月 14 日-19 日 出席者:伊藤真理、藤堂雍子、那須聡子 代表出席者:伊藤真理 発表:伊藤真理	ブラハ国際大会中止 2020 年 7 月 20-24 日 IAML Online 2020: Virtual Meetings and Discussions 開催予定
総会	2019 年 6 月 15 日(土) 場所:愛知淑徳大学星が丘キャンパス 1 号館 2019 年 11 月 2 日(土)臨時総会 場所:順天堂大学お茶の水キャンパス国際教養学部 第 2 教育棟 3 階 302 教室	2020 年 7 月 9 日付書面にて実施
役員会	2019 年 1 月 26 日(土)(株式会社トッカータ) 2019 年 3 月 16 日(土)(株式会社トッカータ) 2019 年 8 月 31 日(土)(株式会社トッカータ)	2020 年 2 月 15 日(土)(株式会社トッカータ) 2020 年 5 月 3 日(日)(電子メール審議)
支部例会・集会	第 66 回例会 2019 年 6 月 15 日(土)愛知淑徳大学 星が丘キャンパス 13A・B 教室 「日本支部 40 周年記念シンポジウム」 パネリスト 金澤正剛、荒川恒子、松下鈞、林淑姫 司会 伊東辰彦 第 67 回例会 2019 年 11 月 2 日(土)順天堂大学お茶 の水キャンパス国際教養学部 第 2 教育棟 3 階 302 教室 「典拠コントロールを問い直す: NCR2018 と FRBR —「第 65 回例会『新しい日本目録規則 (NCR2018)か らみえてくる未来』のその先へ—」 講師:谷口祥一先生(慶應義塾大学文学部人文社会学 科(図書館・情報学系)教授 司会 田島克実	第 68 回例会 未定
ニューズレター	第 65 号 2019 年 1 月 31 日 特集 第 65 回例会報告 第 66 号 2019 年 9 月 30 日 第 66 回研究例会・2019 年総会報告 第 67 号 2019 年 12 月 10 日 IAML クラクフ大会報告・2019 年臨時総会報告	第 68 号 2020 年 1 月 31 日 特集 第 67 回例会報告 第 69 号 2020 年 9 月 30 日予定 2020 年総会報告・IAML Online2020 報告 第 70 号 2020 年 12 月 30 日予定 第 68 回例会報告
ホームページ・SNS 更新	ニューズレター掲載 No. 64 (1/14)、No.65 (2/23)、 No.66(9/30)、No.67(12/10) 総会・例会案内(4/25、6/2、6/12、9/30)、機関誌配布 (6/1) フェイスブック「音楽図書館」更新約 40 件(更新頻度 約 3 件/月)	ニューズレター掲載 No. 68 (1/31) ML 案内(5/11、6/6) フェイスブック「音楽図書館」更新約 46 件(2020 年 6 月現在、更新頻度約 10 件/月)
選挙	—	日本支部役員選挙 2020 実施 選挙期間 2020 年 3 月 27 日~5 月 15 日
その他	本部への会費送金 (4/3)	本部への会費送金 (6/24)

資料②

IAML2019年決算12月31日

費 目	2019年		予算決算差額	備考
	予算	決算		
前年繰越:				
現金	108,526	108,526	0	
ゆうちょ	325,808	325,808	0	
(内 会員会議参加補助基金)				¥127,000
三菱東京UFJ銀行	289,288	289,288	0	
(小 計)	723,622	723,622	0	
収入:				
未収会費				
2018年以前				
個人	6,000	18,000	-12,000	
団体	0	0	0	
会費2019年				
個人	0	60,000	-60,000	
団体	0	14,000	-14,000	
利息	2	1	1	
会費2020年				
個人	336,000	161,000	175,000	個人 55⇒46
団体	280,000	210,000	70,000	団体 20⇒19
雑収入	0	0	0	
(小 計)	622,002	463,001	159,001	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
会員サポート・支部活動支援基金	50,000	65,000	-15,000	
(収入小計)	672,002	528,001	144,001	
収入総額	1,395,624	1,251,623	144,001	
支出:				
本部宛会費送金	410,022	385,218	24,804	2990.40EURO/1EURO=127.92 YEN
予備費	20,000	0	20,000	
経常経費:				
RILM分担金	80,000	80,000	0	
大会代表派遣費	100,000	0	100,000	
ニュース・レター	60,000	15,552	44,448	
会議費、例会費	10,000	7,511	2,489	
交通費	100,000	22,720	77,280	
通信費	50,000	48,595	1,405	
消耗品費	10,000	0	10,000	
雑費	5,000	10,832	-5,832	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	46,000	45,014	986	
(経常経費小計)	471,000	230,224	240,776	
会員会議参加補助基金	100,000	0	100,000	
支出総額	1,001,022	615,442	385,580	
次年度繰越	394,602	636,181	241,579	

次年度繰越金	
現金	3,181
郵便局	264,195
(内 会員会議参加補助基金)	
銀行	368,805
総額	636,181

(¥ 127,000)

IAML日本支部の2019年会計明細書を精査した結果、適切に処理、記載されていると認めます。

2020年5月22日

IAML日本支部会計監査

平岩 寧



資料③

IAML2020年予算案

費 目	2020年予算	2019年決算	予算決算差額	備考
前年度繰越:	2019年度繰り越し	2018年度繰り越し		
現金	3,181	108,526	-105,345	
ゆうちょ	264,195	325,808	61,613	
(内 会員会議参加補助基金)				¥127,000
三菱東京UFJ銀行	368,805	289,288	79,517	
(小 計)	636,181	723,622	-87,441	
収入:				
未収会費				
2019年以前				
個人	18,000	78,000	-60,000	
団体	14,000	14,000	0	
会費2020年				
個人	115,000	161,000	-46,000	個人 46
団体	56,000	210,000	-154,000	団体 19
利息	1	1	0	
会費2021年				
個人	330,000	0	330,000	個人 45(仮)
団体	280,000	0	280,000	団体 19
雑収入	0	0	0	
(小 計)	813,001	463,001	350,000	
会員会議参加補助基金	0	0	0	
会員サポート・支部活動支援基金	50,000	65,000	-15,000	
(収入小計)	863,001	528,001	335,000	
収入総額	1,499,182	1,251,623	247,559	
支出:				
本部宛会費送金	326,703	385,218	-58,515	2676.80EUR/1EUR=122.05
予備費	10,000	0	10,000	
経常経費:				
RILM分担金	80,000	80,000	0	
大会代表派遣費	0	0	0	
ニューズレター	5,000	15,552	-10,552	
会議費、例会費	10,000	7,511	2,489	
交通費	100,000	22,720	77,280	
通信費	70,000	48,595	21,405	
消耗品費	10,000	0	10,000	
雑費	16,000	10,832	5,168	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	45,014	-20,014	
(経常経費小計)	326,000	230,224	95,776	
会員会議参加補助基金	100,000	0	100,000	
支出総額	762,703	615,442	147,261	
次年度繰越	736,479	636,181	-100,298	

IAML Online 2020 参加記

IAML Online 2020 開催の経緯・概要

工藤哲朗

2020 年 7 月 19～24 日の間、本来であれば IAML の国際大会がチェコ・プラハで開催されるはずだったが、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響で延期となったため、これに代わる会員同士の交流を促進するオンラインイベントとして「IAML Online 2020」が開催された。各セッションの詳細については荒川会員と伊藤支部長の記事に譲り、ここでは開催に至るまでの時系列を、(後々の記録も兼ねて) IAML のメーリングリスト「IAML-L」へ送信されたメールの記録をもとに辿ってみたい。なお、以下日付は原則として日本時間による。

IAML Online 2020 関係時系列表

2/19	プラハ大会組織委員会が参加登録開始を告知
3/13	本部事務局より COVID-19 の影響を注視している旨のメッセージを会員へ発信
3/25	機関誌“Fontes Artis Musicae”が Project MUSE 上で無料アクセス可能に
3/26	Hrabia 会長からプラハ大会延期の告知
4/6	プラハ大会組織委員会より、延期後の日程が 2021 年 7/25～30 に確定したと通知
5/3	国際大会延期に伴い本部役員等の任期を 1 年延長する旨 Hrabia 会長より告知。併せてオンラインイベントの開催計画にも言及。
5/6	アドヴォカシー委員会とアウトリーチ委員会が COVID-19 による音楽図書館と音楽図書館員への影響に関するアンケート (回答期限 5/22) の実施を告知
6/12	アドヴォカシー委員会とアウトリーチ委員会がアンケート集計結果の発表
6/13	Ridgewell 副会長よりオンラインイベントへのプロポーザル募集 (募集期限 6/26) を告知

7/7	IAML Online 2020 の全体プログラム公開、参加登録開始
7/20～ 7/24	IAML Online 2020 開催
7/26	本部ウェブサイトにてメインセッションの録画を公開 (会員限定)

以上の通り、3 月 26 日の大会延期決定後、5 月 3 日にはオンラインイベントの開催が既に検討されており、そこから 6 月半ばのプロポーザル募集までの約一月半をかけ開催の詳細が具体化された様子が窺える。なお、表には記載しなかったが、こうした動きと並行して、各種類縁団体による声明等¹への賛同表明といった対外連携活動も行われた。

IAML Online 2020 のプログラム²の中には、本部主催の COVID-19 に係るディスカッションや現況報告のセッション、大会に替わる本部各役員の報告セッション、各組織での実践に関する報告のセッションに加え、アメリカとスペインの各支部主催のセッションも組み込まれた。また、開催各日には 1 時間の懇親会も開催された。

この試みは IAML の活動にも良い効果をもたらしており、例えば IAML では 2020 年 12 月 15 日に” Online Panel Discussion: Notated Music in an Online Environment”³を開催予定 (本稿執筆時点) だが、これは 7 月 23 日開催の” Advocacy and the ‘new normal’

¹ Liveeurope の” Music sector joins together to call for EU and national investment to address current crisis and promote diversity” <<http://www.live-dma.eu/music-sector-joins-together-to-call-for-eu-and-national-investment-to-address-current-crisis-and-promote-diversity/>>、REMA の” Europe needs culture and culture needs Europe” <<https://fest-network.eu/now-europe-needs-culture-and-culture-needs-europe/>> など (本稿の URL はいずれも 2020-12-5 閲覧)。

² 全体のプログラムや当日の配布資料の一部などは、次の URL を参照” IAML Online 2020 | IAML”

<<https://www.iaml.info/congresses/iaml-online-2020>>。

³ <https://www.iaml.info/news/online-panel-discussion-notated-music-online-environment>

for music libraries post-COVID-19”で、印刷楽譜を含むモノの移動による感染拡大の危険性から、電子楽譜の必要性が話題に上り、現在の電子楽譜サービスがあまりに高額で、新たな枠組み作りのために音楽出版社も交えた協議の場が必要であるとの議論がなされたことを受けたものと考えられる。このようなことから、IAML Online 2020 は IAML がコロナ禍での「次」を考える上で重要なイベントだったといえるだろう。

IAML Online 2020 に参加して

荒川恒子

本年 2 月末から、正体が掴めない新型コロナウイルスの感染が広まり、多くの行事が中止・延期に見舞われています。当初は数カ月で元通りの生活に戻ると考えられていましたが、そうはいかないのが現状です。現職の方々はそれを受けて、オンラインを用いて、仕事の補充をなさっておられます。すでに退職して 12 年目に入った筆者には、そのような逼迫した事情はありません。しかし収束後の生活はどうか、否が応でもデジタル化が進むはずで、事実多くの学会からオンライン会議への招待が入ってきたのです。まずは我が家の設備をそれに対応できるよう改善して、Zoom をインストールしてみました。そしていよいよ初オンライン会議参加を果たしたのが、この IAML 会議でした。工藤哲朗さんが「初めて参加します」とチャットで自己紹介しておられる様子、また先日お亡くなりになった岸本宏子さんの最後の御姿も、ネットを通して目にすることができました。

さて昨夏のクラクフ大会後、従来通りに会長はパリで開催された IMC 総会(2019 年 9 月 27-28 日)と、ヘルフェルスムで開催された IASA の 50 周年大会に出席されました。創設以来強い絆で結ばれているこれらの協会間では、活動状況の報告を交換しあいます。その際地味で縁の下のような活動ですが、我々の協会の仕事が社会にとって、文化的に重要であることを多くの人々に伝えるために、次期会長ピア・シェクター氏は「国際音楽図書館とアーカイヴの日」設立の要請書

を、ユネスコに提出されたそうです。本協会を一般に広く知らしめるための、工夫や手段を検討するアドヴォカシー委員会の活動の一端と位置付けられるでしょう。そして 2 月末の 2 日間、ケンブリッジで IAML 常任委員会の打ち合わせがなされました。その時にはまさか 2 週間後には、ヨーロッパの多くの国がロックダウンし、プラハ大会は延期せざるを得ないことになる、とは思ってもみなかったはずで、

会議を 1 年延期するという事は、それに伴い様々な問題の処理が生じます。この事実を本年の開催地プラハ、来年に予定している南アフリカのステレンボッシュが了承できるかが問題です。幸いにもそれぞれの現地の関係者の理解と協力により、即座にクリアできました。しかし会長、さらに任期が切れる委員会の委員長は、会議中に職の交代と仕事の引き渡しをなさるのが常ですが、その処理はどうすべきか等、様々な議論がなされたそうです。それらに関しては、常任委員会と組織委員会が相談の上、全てを 1 年間凍結することとなりました。つまり現委員は 1 年余分に仕事をすることになります。2021 年に IAML 創設 70 周年祝賀大会を開催するプラハ会議を、より一層賑々しく祝する準備にあてるということで、意見の一致をみたそうです。「IAML の歩み」を会員と辿る様々な企画が用意されるようです。そのような話し合いの中で、初めての試みであるオンライン会議が浮上してきました。

当初考えた小規模な会議は、新しい状況に直面したからこそ見えてきた課題を含めて、規模の大きなオンライン会議へと成長していきました。様々な現実的な調整は、非常に大変であったはずですが、筆者にはよく詰めがなされて充実し、将来への可能性の見える会議になったと感じました。7 月 20 日(月)の開始セッションは 14:00- 15:30 UTC (16:00- 17:30 CEST)、ということは我が国では 23:00 から始まることとなります。開催準備委員が非常に苦慮されたのは、参加国全体の時間差調整でした。事実自宅から早朝に、職場の隅で、真夜中に等々、一箇所に集まって開催される会議では、考えられないそれぞれの会員の日常を髣髴とさせる姿を垣間見、微笑ましい瞬間もありました。

この日は見事な処理をなされた会長スタニスラフ・フラビア氏を初め、事務局長アンダース・カト氏、会計のトーマス・カルク氏、3名の副会長、『フォンテス』編集長、ウェブ・エディター、そしてRプロジェクトを牽引する諸氏の年間報告がありました。特にRISM 本部の所長として、長らく地道な働きをしてこられたクラウド・カイル氏の退職が告げられ、100名を越える参加者から、感謝のチャットが発せられました。なおこれらのレポートには、アドヴォカシー、アウトリーチ、メンバーシップ委員会からの報告も含まれていました。

次に私が覗いたのは最終日、24日(金)14:00-15:30 UTC (即ち日本時間 23:00-0:30)でした。この日はアメリカと英国の会員が、資料のデジタル化、特にエフェメラの情報をデジタル化して、提供するための様々な試みの紹介と会員への誘いかけがなされました。本部のホームページの Publication & Projects をクリックし、Resources の中から History of Musical Performances を開けると、目下公開されているエフェメラの一覧表がでています。同様のプロジェクトを行っている方へ、この表の中にその名を並べるようにとのお勧めがありました。なおこのような資料は図書館のみに所蔵されている訳ではありません。資料データを国際基準や水準で、カタログ化できる能力を持っている方がおられる施設ばかりが該当する訳ではありません。だからといって躊躇なさる必要はありません。何でも良いまたはどのようなやり方でも良いですから、互いにやり取りをしながら、データの基準となる纏め方を探求していくことから始めたいとのこと。このプロジェクトはまだ比較的新しいもので、多くは主として19世紀から20世紀前半の資料を提示しています。我が国では2017年6月3日(土)に、東京音楽大学附属図書館において開催した第62回例会において、「公演資料の収集と整理—演奏会プログラムのデータベース構築にむけて」と題する企画が、林淑姫氏の発案により初めて行われました。早稲田大学演劇博物館副館長の児玉竜一氏、明治学院大学図書館附属日本近代音楽館の森本美恵子氏、東京文化会館の遠藤淑恵、永井靖子氏がそれぞれの館のデータ発表、

トッカータの鳥海恵司氏がデータベース作成に関する提案をなさいました。非常に興味深い内容でした。その報告は2017年10月31日発行のニューズレター61号に掲載されています。我が国からも発信できることは多いと感じた瞬間でした。本部プロジェクトからの指示を待つのではなく、各施設が自ら適切と考えることの提案等もしながら、日本支部も国際協力することを本気で考えるべきではないかと感じます。もっとも勇気をもってといわれても、難しいものです。一応目を通してみるようにと提案いただいたのは、多くのデータを結ぶドイツの musicconn database です。当日はさらにボーン・デジタル作品の扱い、デジタル化の進むプリンストン大学メンデル図書館のストリーミング・プロジェクトの紹介がありました。特にこの半年、動きのつかない状況の中で、手探り状態で多くのストリーミング配信が実施されています。その中で新たな表現や発信の可能性を見出した方もおられます。エフェメラ資料の有り方も変わっていくことでしょう。今回は問題提起といった感じでしたが、さらにまとまった報告がプラハ大会で行なわれるそうです。IAML 活動が曲がり角に来た、という感触を得るオンライン会議だったと思います。しかし来年はプラハの文化背景を共有しながら、対面で学び合うことが楽しみです。

IAML Online2020 より

伊藤真理 (愛知淑徳大学)

他の稿で言及されているとおり、2020年の年次大会はオンライン開催となった。時差や日常業務の関係ですべてのセッションに参加できなかったため、非公開で行われた支部代表者会議のほか、各種のプロジェクト現状報告から個人的に関心が高かった2件について以下に概要をまとめる。

1. 支部代表者会議

当日は、副会長の一人 Jürgen Diet 氏議事進行のもと、23名が参加した。IAML が1951年にパリで創設

されてから来年で創立 70 年記念を迎える。そこで、各支部でも記念行事の検討を推奨された。本部 Web サイトには、1949 年からの歩みが記載されており、Harald Heckmann 氏による 50 年のまとめ(英訳 Malcolm Turner 氏)と、Roger Flury 氏による続く 16 年分が掲載されている⁴⁾。そして、前 IAML Archivist の Inger Enquist 氏と IAML Historian Roger Flury 氏によって、1949 年～2018 年までの年表が作成されており、年次大会開催地、会員数、役員や各種委員会についての情報がまとめられている。IAML の歴史を知る上で、この機会にこれまでの歩みをたどってみるのもよいであろう。

SNS での発信の際には、ハッシュタグ“# IAML at 70”をつけるようにとのことである。このことと関連して、ウィキペディアに諸言語での IAML の記事が掲載されることへの希望も伝えられた。記事執筆に関して支部役員会でも話題にあげたが、倫理的な観点から当事者による記事作成を当面見合わせることにした。

そして、新たに任命された IAML historian である John Wagstaff 氏から、現住もしくは引退会員へのインタビューを行い、オーラルヒストリーの記録を残していくことが提案された。2001 年に発行された“Fontes Artis Musicae”48 巻 1 号の 50 周年特別号は記念号としてのこれまでの活動での良い見本である。ちなみに、上述の Heckmann 氏の記事はこの号からの抜粋である。事務局長と IAML Archivist とともに、アーカイブ化について作業中とのことである。

また、IAML e-archive に職員研修や支部の刊行物などの文書を残していくこと、Recent Publications in Music (RPiM) データベースの構築についての報告があった。当データベースは、UK&Ireland 支部からのデータをダウンロードして提供されており、今後のデータベース活用の有用性についての検討が必要とのことだった。

⁴ The International Association of Music Libraries. History & Archives. <https://www.iaml.info/history-archives> (以下本稿でのウェブ上の情報源の閲覧日は全て 2020-11-12)。

その他に、支部ウェブサイトの管理では、安全性やユーザビリティの観点から“https”を使用すること、支部の情報を最新なものに更新することや各種事例をブログに掲載することへの協力依頼、会員の微減についての説明がなされた。また、年次大会については、ハイブリッドな方法について検討したいとのことだった。

2. Project Reports and Future IAML Congresses

オンライン会議の最終日のセッションでの各種プロジェクトの紹介から、次の 2 件について報告したい。これらは荒川会員による報告でも言及されている。いずれも当日の発表資料がウェブページに掲載されているので、参照することが可能である⁵⁾。

(1) Chris Scobie (British Library): Born-digital composer archives: first steps at the British Library

本発表は、Born-digital music archives working group (BDMAWG) によるデジタルデータとして作成されたコンテンツを対象としたアーカイブについてである。筆者はアーカイブに関して十分な知識を持ち合わせないため、適切な報告ができないのが残念だが、これから取り組んでいかなければならないトピックとして大変興味深い。

発表資料にもあるように、例えばイギリス在住の作曲家 Brian Elias に関しては、シベリウスなどの楽譜ソフトによるデータや録音ファイル、電子メールなどの様々なフォーマットによる電子ファイルが文書として存在している。こうした状況でのアーカイブ化についてはトライアンドエラーにより、経験を蓄積している状況にある。

⁵ Chris Scobie. Born-digital personal archives of composers (and other musicians): first steps at the British Library. https://www.iaml.info/sites/default/files/pdf/scobie_born-digital_music_archives_british_library_for_iaml_2020.pdf
Katharine Hogg. IAML Study group on Access to Performance Ephemera. https://www.iaml.info/sites/default/files/pdf/hogg_iaml_ephemera_study_group_2020_virtual_presentation.pdf

デジタル保存に関して、DPC Rapid Assessment Model と呼ばれる組織的な管理運営のための評価モデルがある（日本語訳あり）⁶。このモデルは分野や規模を問わず適用可能とのことである。こうしたモデルを利用して長期的な計画により、対象データの評価やデジタル保管、アクセス可能性などを保証できるように検討していくこととなるのであろう。今後の活動に期待したい。

(2) Katharine Hogg (Gerald Coke Handel Collection, London): Report on the Study Group on Access to Performance Ephemera

本発表は、演奏関連資料を対象としたエフェメラ（絵はがきや入場券など長期的保存を意図しない資料のこと）の研究グループ⁷の報告である。演奏に関する資料とは、演奏会プログラム、ポスター、チケットなどの歴史的、学術的研究での 1 次資料となるものである。当グループは公式に 2003 年に発足し、演奏会資料やデジタルプロジェクトをまとめたリストをウェブページに掲載⁸するなど、充実した内容の活動を行っている。2019 年クラクフ大会でも活動発表がなされている。

現在は、エフェメラコレクションの組織化のためのデータ作成用のテンプレートを作成する準備を進めているようである。このテンプレートは、諸データベースを関連付けることのみならず、カタログではない一般の人でも自前のコレクションを組織化する際のガイドとなるように意図されている。したがって、典拠データや構造化データを使用することは強く求められていない。とはいえ、バーチャル国際典拠ファ

⁶ デジタル保存連合ラピッド・アセスメントモデル。

<https://www.dpconline.org/docs/miscellaneous/our-work/dpc-ram/2388-dpc-ram-japanese-revised/file>

⁷ Study Group on Access to Performance Ephemera.

<https://www.iaml.info/study-group-access-performance-ephemera>

⁸ Projects related to the history of musical performance.

<https://www.iaml.info/projects-related-history-musical-performance>

イル VIAF のデータを利用したり、音楽イベントを対象とした Schema.org による MusicEvent⁹ でデータをマークアップしたりすることは推奨されている。見本となるのは、Bayerischen Staatsbibliothek München と Sächsischen Landesbibliothek -Staats- und Universitätsbibliothek Dresden の共同プロジェクトによる musicconn.performance というデータベースである¹⁰。発表資料には、スライド 3 枚にわたってレコード作成のためのデータ項目が掲載されており、標準化データの記載対象も確認できる。

当支部においても第 62 回例会（2017 年）で演奏会プログラムのデータベース構築がテーマとして取り上げられている。例会では、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、明治学院大学図書館附属遠山一行記念日本近代音楽館、東京文化会館音楽資料室における活動が発表された。その後の進展について当支部に報告が入っていないが、これらのプロジェクトが国内の貴重な演奏会データとして、国際的に共有できることは望ましいのではないだろうか。共通フォーマットによる作成でなくとも上述のプロジェクト一覧に加わることも有意義と思われる。

発表資料にあるとおり、同プロジェクトに関連した進行中のプロジェクトもいくつかある。その一つはリンクデータベースとして構築されるとのことであり、現在の情報環境に適した使い勝手の良い情報利用・提供が期待される。

事務局だより

○支部会員の訃報：岸本宏子氏

去る 2020 年 10 月 9 日、昭和音楽大学名誉教授で当支部前役員の岸本宏子氏が亡くなりました。ご自身の編著『つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史』（アルテスパブリッシング、2020）刊行を目前に控えてのご逝去でした。

⁹ Schema.org. MusicEvent. <https://schema.org/MusicEvent>

¹⁰ musicconn.performance.

<https://performance.slub-dresden.de/>

岸本氏は東京藝術大学大学院修士課程修了後、プリンモア・カレッジで哲学博士号（音楽学）を、さらにシモンズ・カレッジで科学修士号（図書館情報学）を取得、帰国後は西洋音楽史研究に従事するとともに、日本における音楽図書館学の先駆として、当支部創立（1979）に携わり、IAML 東京大会（1988）では実行委員も務められました。

当支部を長い間支えてくださった岸本宏子氏のご逝去に際し、謹んで哀悼の意を表します。

なお、次号の支部 Newsletter では岸本氏の追悼特集を予定しております。

○第 68 回例会について

2020 年春以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、IAML 日本支部の例会は残念ながら開催することができておりません。

現在は、2021 年初めの第 68 回例会の開催を目指して例会担当でテーマや開催方法を検討しておりますので、暫時お待ちくださるようお願いいたします。

○2021 年の国際大会はオンラインに

2021 年の IAML 国際大会は、オンラインで実施されます（プラハ大会は 2022 年に再延期）。大会の詳細については以下 URL をご確認ください。

<https://www.iaml.info/congresses/2021-online>

○第 22 回図書館サポートフォーラム賞決定

「第 22 回図書館サポートフォーラム賞」に当支部会員（*）を含む以下の 3 名が選ばれました。

- ・ 矢野陽子氏（全国市有物件災害共済会 防災専門図書館 司書・学芸員）
- ・ 林淑姫氏（近代洋楽史研究者／旧日本近代音楽財団日本近代音楽館 主任司書）
- ・ *鳥海恵司氏（株式会社トッカータ 取締役）

同賞はユニークで社会的に意義のある各種図書館活動を表彰し、図書館活動の社会的広報に寄与することを目的に 1996 年に設立されました。

表彰式は 2020 年 9 月 29 日、日本教育会館にて行われ、水谷長志氏（跡見学園女子大学）の表彰理由の報告の後、山崎久道会長（情報科学技術協会）より記念盾が贈呈されました。



表彰式の様子

*授賞の詳細：

https://www.nichigai.co.jp/lib_support/lsf_award.html

○株式会社トッカータが設立 20 周年記念出版

団体会員の株式会社トッカータが、設立 20 周年記念出版として『日本目録規則 2018 年版 体現形(書誌)・典拠データ 完全実例集』を刊行しました。

本書は国際標準を意識した新しい日本目録規則による「音楽資料の検索/発見の可能性を高める」実例を多く掲載し、事例には NCR2018 の本則のほか、主として RDA (Resource Description & Access) との互換性確保の目的で「任意」または「別法」を適用しています。購入特典として、実例集 2 冊の Toccata MARC (スタンダードタイプ) / 典拠データが提供されます。

*本書の概要掲載ページ：<http://www.toccata.co.jp/>

Newsletter - 国際音楽資料情報協会日本支部
第 69 号

(2021 年 1 月 12 日発行)

国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部
〒480-1197 愛知県長久手市片平 2-9
愛知淑徳大学人間情報学部伊藤真理研究室内
(担当：工藤)

<http://www.iaml.jp>